



飯田高校だより

校長版 第2号

令和2年10月13日

「探究的な学び」について伝えたいこと(続)

～1枚の写真～

10月1日(木)の終始業式は、コロナウイルス感染症対策として、遠隔会議システムと電子黒板を使って実施しました。(写真右)実施に当たっては、各教室での機器の接続等について多くの先生方の協力をいただきました。また、生徒の皆さんにも各教室から式に参加してもらいました。こうして新たな試みが成功裏に終わったことに感謝いたします。



さて、当日は将棋の藤井八段やスピードスケートの小平奈緒選手を例に挙げながら、「探究的な学び」の意味について話をしました。そして、「探究的な学び」は教科の授業にとどまるものではなく、学校での活動全般に関わっているものであることも強調しました。



この話題の続きとして、皆さんに一枚の写真をお見せします。(写真左)やや不鮮明でわかりにくいかもしれませんが、これは天竜川の船着き場です。そこで学習用の机と椅子に座っている生徒の姿は何やら不思議な光景ですが、さらに奇妙なことに左側の舟下り用の舟と思われるところにも、船頭とともに生徒が座っています。

種明かしをすると、これは飯田 OIDE 長姫高校で行っている「探究的な学

び」である「地域人教育」の PR のために撮影したものなのです。この写真は大変印象的で、「探究的な学び」の本質をよく表していると思います。皆さんはどう感じますか。私には、「探究的な学び」のフィールドは学校の枠さえも超えてどこにでもあるのだということ、さらに言うならば、天竜川に象徴される身近な地域にこそ学ぶべき宝が隠されているのだということが、明確なメッセージとして伝わってきました。